

令和6年度 三浦市学力調査及び全国学力・学習状況調査の三浦市の調査結果について

三浦市教育委員会

三浦市では、以下のことを目指して「みうらっ子学力アッププロジェクト」を進めます。

目的 ◎みうらっ子の自己肯定感を高め、自らの成長が実感できる学びづくり

☆みうらっ子の学力の向上と定着

☆教員の指導力の向上と改善（育成）

☆保護者の家庭学習への意識への向上

1 調査の概要と目的

令和6年4月に実施した「令和6年度 三浦市学力調査」及び「令和6年度全国学力・学習状況調査」の三浦市立小・中学校の調査結果の概要をお知らせします。

三浦市学力調査は、「みうらっ子学力アッププロジェクト」の目的達成のために、児童・生徒の学力や学習状況を経年的に把握し、学校における児童・生徒への教育指導の充実や、児童・生徒の学習状況の改善等に役立てるために行われるものです。

全国学力・学習状況調査は、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために行われるものです。

なお、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることも踏まえて、調査結果を報告するものです。

2 「みうらっ子学力アッププロジェクト」における三浦市の今後の取組について

三浦市教育委員会では、三浦市の児童・生徒が確かな学力を身につけていくため、本調査の分析と考察を行いました。調査結果から学習に関する基礎基本の定着に関して成果が見られるものの、考えを説明するなどの思考力・判断力・表現力の育成に關しての課題が明らかとなりました。

今後も、「みうらっ子学力アッププロジェクト」の目的達成を目指し、分析結果や各校での取組状況を共有する場を設け、情報提供と共有化を行い、授業力向上に向けて研修の充実や校内研究の共有化を図ってまいります。さらに、各学校では全国学力学習状況調査該当学年（小6・中3）に加えて三浦市学力調査実施該当学年（小2～小5・中1，2），そして小1の全学年において授業や学習状況の見直しを図り、授業改善につなげていく取り組みを行ってまいります。

学力を含めた子どもたちの生きる力を向上させ、自己肯定感を高めていくためには、家庭・地域・学校・教育委員会の連携が重要であると考えています。三浦市の子どもたちが、よりよい生活習慣と学習習慣を身につけ、生涯にわたって学び続けるために、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

3 実施状況

(1) 調査の実施日 令和6年4月18日(木)

(2) 調査の対象

三浦市学力調査 小学校第2～5学年 中学校第1, 2学年
全国学力・学習状況調査 小学校第6学年 中学校第3学年

(3) 実施項目

- ・教科に関する調査(小学校:国語,算数 中学校:国語,数学)
- ・児童・生徒質問紙調査(全国学力・学習状況調査のみ)
(学習意欲や学習方法,生活,PCやタブレットなどのICT機器等に関する質問)

(4) 実施校数

小学校 8校 中学校 3校

(5) 実施人数

小学校 2年生:209名 3年生:216名 4年生:237名 5年生:199名 6年生:214名
中学校 1年生:225名 2年生:242名 3年生:250名

(6) その他

調査結果については,序列化や過度な競争につながらないようにするため,各学校の結果については,市としては公表しません。

4 結果

(1) 三浦市立小・中学校の教科別平均正答率等

※目標値・・・問題作成の際に「おおむね満足」と言える水準として設定した目標とする正答率。

【小学校2年生】(三浦市学力調査)

	国語			算数		
	教科総合	基礎	応用	教科総合	基礎	応用
三浦市	72.7	79.8	34.6	76.3	79.0	65.8
目標値	74.4	79.0	58.3	76.7	79.8	73.5
全国	82.8	88.9	50.0	84.3	86.8	74.7

【小学校3年生】(三浦市学力調査)

	国語			算数		
	教科総合	基礎	応用	教科総合	基礎	応用
三浦市	73.0	74.2	66.0	75.6	80.0	58.9
目標値	72.7	74.0	68.4	76.4	82.2	53.6
全国	81.5	82.1	77.7	83.8	87.1	71.3

【小学校 4 年生】（三浦市学力調査）

	国語			算数		
	教科総合	基礎	応用	教科総合	基礎	応用
三浦市	57.8	64.4	32.8	61.6	64.2	50.4
目標値	56.7	58.4	43.5	61.9	62.5	56.8
全国	66.5	73.0	42.3	71.3	74.2	58.5

【小学校 5 年生】（三浦市学力調査）

	国語			算数		
	教科総合	基礎	応用	教科総合	基礎	応用
三浦市	47.9	52.3	25.8	50.3	56.2	28.8
目標値	50.0	54.7	48.6	59.1	63.5	40.2
全国	62.1	66.4	40.8	61.8	65.9	47.0

【小学校 6 年生】（全国学力・学習状況調査）

	国語	算数
三浦市（公立）	60%	59%
神奈川県（公立）	67%	64%
全国（公立）	67.7%	63.4%

【中学校 1 年生】（三浦市学力調査）

	国語			数学		
	教科総合	基礎	応用	教科総合	基礎	応用
三浦市	53.9	57.7	31.3	56.3	61.6	39.5
目標値	53.1	53.4	35.7	55.6	61.3	47.8
全国	62.0	65.7	39.5	65.3	69.4	52.5

【中学校 2 年生】（三浦市学力調査）

	国語			数学		
	教科総合	基礎	応用	教科総合	基礎	応用
三浦市	61.8	64.9	43.0	43.2	48.5	25.3
目標値	60.2	67.0	48.4	41.8	44.8	30.7
全国	69.2	71.3	56.1	50.0	55.5	31.4

【中学校 3 年生】（全国学力・学習状況調査）

	国語	数学
三浦市（公立）	54%	48%
神奈川県（公立）	59%	54%
全国（公立）	58.1%	52.5%

5 三浦市学力調査結果について

各学年とも、目標値との差で考えると±5%の範囲であり、おおむね満足する結果と言えます。ただし、一部の学年や教科では大きく下回りました。

全国平均との差で考えると、教科総合、基礎はほとんどの学年が10ポイント前後下回りました。応用については、さらに大きく下回りました。

小学校国語の応用（登場人物の心情について説明したり、よりよい文章に修正したりするなどの問題）における正答率の低さが特に顕著であり、条件に沿って記述する問題の無回答率が高いという傾向があります。

また、算数・数学においても、問題の求め方を式と言葉で説明したりするような記述タイプの問題に対して苦勞している傾向は、小学校の算数・中学校の数学でも同様です。説明する問題の正答率は低く、無回答率が高い傾向があります。

これらのことから、まずは自分の考えをもつこと、次にそれを表現することについての学習の機会をより多く設け、児童・生徒のつまづきに対して適切な支援が必要だと考えられます。複数の資料・データから必要な情報を読み取って考えるタイプの問題につまづきが多いので、そのような学習の機会も多く取ることが重要です。

6 全国学力・学習状況調査結果について

○ 小学校 6 年生について

（1） 各教科の概要（問題番号）

【国語】 〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

○話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる。（1二（1））

○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（2一（1））

○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（2一（2））

●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。（1二（2））

●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる（2三ア）

【算数】 〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

- 数量の関係を、□を用いた式に表すことができる。(1 (2))
- 直方体の見取図について理解し、かくことができる。(3 (1))
- 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できる。(3 (4))
- 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる。(3 (4))
- 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる。(5 (1))
- 簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができる。(5 (2))
- 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる。(2 (1))
- 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる。(3 (3))
- 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。(4 (3))
- 速さの意味について理解している。(4 (4))
- 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる。(5 (3))
- 示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できる。(5 (4))

(2) 児童質問紙調査の結果概要

〈良好な項目〉(90%以上の児童が肯定的な回答をした項目など) ※「どちらかといえば」「ときどき」を含む

- 朝食を毎日食べていますか
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
- 人が困っているときは、進んで助けていますか
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- 友達関係に満足していますか
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
- 5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか
- 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

○国語の勉強は大切だと思いますか

○国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

○算数の勉強は大切だと思いますか

○算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

○英語の勉強は大切だと思いますか

〈課題がある項目〉

●普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか

●普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

●あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）

（３） 調査結果から分かること

教科別平均正答率については、全国（公立）と比べ、国語についてはやや低い傾向がありました。言葉の特徴や使い方に関する事項などの知識・技能の部分については、おおむね習得している傾向が見られました。一方、自分の考えを記述するなどの思考力・判断力・表現力に課題が見られました。

算数については、全国（公立）と比べ、ほぼ同程度です。ただし、自分の考えを記述するなどの思考力・判断力・表現力に課題が見られました。

質問紙では、自分自身に関することや、「人が困っているときは、進んで助けている」や、「人の役に立つ人間になりたい」などの人間関係についてのことに、肯定的な回答が多く見られました。一方で、テレビゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画を視聴する時間については、全国平均よりも長い傾向が見られました。また、家にある本の数については少ない傾向が見られました。

○中学校3年生について

（１）各教科の概要 （問題番号）

【国語】〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

○具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。（２二）

○目的や意図に応じて、集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。（３一）

○行書の特徴を理解している。（４三）

●意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。（１三）

●文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。（２一）

●目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる。（２四）

●表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(3 四)

【数学】〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

○簡単な場合について、確率を求めることができる。(5)

○問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる。(6 (1))

○二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈することができる。(8 (1))

○グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができる。(8 (3))

●等式を目的に応じて変形することができる。(2)

●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。(6 (2))

●統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができる。(6 (3))

●複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。(7 (2))

●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。(8 (2))

●筋道を立てて考え、証明することができる。(9 (1))

●事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができる。(9 (2))

(2) 生徒質問紙調査の結果概要

〈良好な項目〉(90%以上の生徒が肯定的な回答をした項目) ※「どちらかといえば」「ときどき」を含む

○朝食を毎日食べていますか

○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

○人が困っているときは、進んで助けていますか

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

○人の役に立つ人間になりたいと思いますか

○友達関係に満足していますか

○普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

○授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

○道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

○国語の勉強は大切だと思いますか

○国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

〈課題がある項目〉

●普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式の

ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか

●普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)

●あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(一般の雑誌、新聞、教科書は除く)

(3) 調査結果から分かること

教科別平均正答率については、全国(公立)と比べ、国語についてはほぼ同程度です。ただし、目的に応じて必要な情報に着目して要約するなどの思考力・判断力・表現力の部分については課題が見られました。

数学についても、全国(公立)と比べ、ほぼ同程度です。ただし、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明するなどの思考力・判断力・表現力の部分については課題が見られました。

質問紙では、生活習慣の定着や自分を肯定的にとらえる回答が高い傾向が見られました。また、人の役に立つ人間になりたいなどの人間関係についても肯定的な回答が多く見られました。一方で、テレビゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画を視聴する時間については、全国平均よりも長い傾向が見られました。また、家にある本の数については少ない傾向が見られました。

○三浦市 教科調査および質問紙調査の傾向について

児童・生徒質問紙調査の結果と教科(国語、算数・数学)の正答率との関係について、教科の正答率が高い傾向が見られた質問等を抜粋し掲載します(相関関係があったものであり、必ずしもそれが因果関係を示すものではありません)。

次のような回答をした児童・生徒に、教科の正答率が高い傾向が見られる。

- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができること
- ・これまでの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していること
- ・これまでの授業で、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいること
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすること
- ・学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげていること

以上のように、学びに向かう粘り強さ、自力解決、自らの学習を次につなげる態度等が児童・生徒の学ぶ意欲、学ぶ力の向上につながることが分かります。